



平成20年9月12日
内閣府（防災担当）

中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」（第11回） 議事概要について

1. 専門調査会の概要

日時：平成20年9月8日（月）13：30～16：00

場所：全国都市会館

出席者：秋草座長、河田副座長、秋本、梅崎、岸井、小室、志方、島田、杉田、
田中（淳）、田中（里）、田村、辻村、飛山、松田、宮村、虫明、森地、
山口、山崎 各専門委員
並木内閣府大臣政務官、大森政策統括官、田口審議官、中島参事官、田尻参事官、
青木参事官、池内参事官 他

2. 議事概要

荒川の洪水氾濫による被害想定（死者数・孤立者数等）並びに利根川左岸における1000年に1度の発生確率の洪水による氾濫（渡良瀬貯留型氾濫、古河・坂東沿川氾濫）に伴う被害想定（死者数）、大規模水害時における対応課題等について事務局より説明を行った。これらの内容について各委員にご議論を頂いた。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

（主な意見）

- 渡良瀬貯留型氾濫については、本川の堤防が決壊するような状況の時には、内水被害が発生し、住民は避難しているのではないかと。内水の発生状況を踏まえて検討すべきではないかと。
- FEMA（アメリカ合衆国連邦危機管理庁）は相当の人員と予算を保有し、地方に対し予算の支援を行っている。自治体への財政支援の状況について調べて欲しい。
- FEMAの災害復興基金について、復興等に用いた後に、連邦政府や州政府など、どのような主体が補填をしているのか調べてもらいたい。また、被害を受けなかった自治体も補填しているのか調べてもらいたい。
- 過去の地下鉄の浸水例では、工事箇所や換気口から浸水している場合が多い。換気口の浸水対策の実施状況について教えて欲しい。
- 氾濫水を緊急的に河川に戻すため、河川堤防を壊すことになった場合、その判断は誰がど

のように行うのか。緊急時には、上部機関に判断を仰ぐことは時間がかかりすぎる。意志決定の権限は現場に下ろしておかないと判断が遅れるのではないか。

- 浸水被害を軽減するために河川堤防を破壊するなど重大な決定を行う場合について、意志決定の手順だけはあらかじめ決めておく必要がある。事前に様々なケースを設定して決定しておくことは困難だが、意志決定の手順だけでも決めておくべき。
- 防水扉を閉めた場合、下流の空間への浸水は防げるが、上流側の水位が上昇し、プラットフォームを通じて、地下街等の地下空間の浸水が発生する可能性がある。防水扉を閉めた場合と閉めない場合で、どちらが大きな被害になるのかを検討する必要がある。
- 地下鉄が浸水した場合の事業再開までの時間、運行停止による経済損失等について、慎重かつしっかりと検討して欲しい。
- 今回の被害想定を受けた取り組み例は、水害を発生させない対策が入っておらず、避難が中心となっているが、一般の人が見た時に大規模な災害が発生して避難のみでは違和感がある。どのように被害を防ぐのかについても検討すべき。また、対策についてのロードマップを作成すべき。
- このような水害が発生するリスクはどの程度あるのか明確にすべき。また、堤防が決壊した時に大きな被害にならないような対策も考えるべき。
- 洪水氾濫時の応急対策を検討するには、どの段階で誰を救うのかが重要である。地下鉄であれば客をどう助け、いつ地下鉄を止めるのか、道路の場合は誰が判断するのか等を決めなければならない。
- 情報伝達手法の検討に際しては、地震と水害を分けて考えない方がよいのではないか。
- 地下鉄が浸水するような場合における対策についても時系列でまとめる必要がある。
- 海外の避難の例や国内の防災対策例について、参考資料として示すだけでなく、具体的な取り組みを早急に行って頂きたい。実際に取り組みを行うのが難しい場合についても、具体的な検討を行って頂きたい。
- 重要施設の位置情報の提示については危機管理上の配慮が必要である。
- 地下鉄の浸水対策について、何を行えばどの程度被害が減るのかといったことについて、感度分析的に検討を行って欲しい。
- 高台に逃げて孤立した人は避難したといえるのかといった観点も考慮の上、避難という言葉の定義をはっきりさせる必要がある。
- 避難勧告について、マニュアル通りの言葉で伝えるのではなく、誰にでも分かりやすく伝えるようにして欲しい。また、防災行政無線からの音声放送の声は聞き取りづらい。高齢者にも分かりやすい言葉で、みんなが聞こえるような放送を心がけて欲しい。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

地震・火山対策担当参事官

池内 幸司

同企画官

安田 吾郎

同参事官補佐

青野 正志

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199